

# 全日本 語りネットワーク ニュース

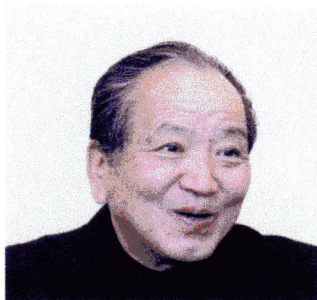
全日本語りネットワーク

〒376-0006 群馬県桐生市新宿1-4-33

Tel0277-43-8140 振替 00130-2-114808

## 桃はドンブラコか

立石 憲利



ある公民館の市民講座で、民話について講演をした。その中で岡山県西部・備中

地方を中心に伝承されている「桃太郎」も語った。

講演が終って司会者が、「せっかくですから何か質問はありませんか」とたずねた。すると一人の老紳士が立ち上がって、

「いまの桃太郎の中で、桃が流れる音を“ドンブリカッシリスツパイポー”とか言われましたが、それは間違いです。桃が流れる音は“ドンブラコ、ドンブラコ”です」と。

公民館講座の参加者は、ほとんど女性で男性は珍しい。その珍しい男性からの質問だ。

「いや、桃が流れる音は、ドンブラコもありますが、その他、私の語ったドンブリコカッシリスツパイポーだとか、ドンブリコンプリスツコンゴ、それにウッカリウッカリなど、いろいろあります。どれも間違いではありません」

「いや、桃が流れるのはドンブラコに決まっております、他は間違いです」

「それでも桃が流れてくる川も違えば、音を聞く人も違うわけですから、音が違うのは当然ではないでしょうか。急流もあれば、ゆったりした川もある、すべてドンブラコの方がおかしいではありませんか」

「そんなことはありません。桃はドンブラコに決まっています」

「これ以上、話がかみ合いませんので、意見としてお聞きしておきます」

これで一段落したのだが、こんなやりとりがあるのは講演では珍しい。それにしても、桃はドンブラコ以外にないし、他は認められないというのはどうなんだろう。

「みんなが同じ」という集団の中におれば一見安心だろうが、その集団がどの方向に行くかも分からないでは安心してばかりしておられないはずだ。

それにしても、いまの日本は、「桃はドンブラコです」になってきているように思われて仕方がない。「ドンブリカッシリスツパイポーもあるぞ」と大声で言いたい。